

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 円空大賞開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111(内3119)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 30,541 千円 (前年度予算額： 5,400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,400	0	0	0	0	0	0	0	5,400
要求額	30,541	0	0	1,387	0	0	0	0	29,154
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・平成11年度に「円空大賞」を制定し、令和4年度までに11回の受賞者選考と授賞式および展覧会を開催してきた。このことは、ふるさとの誇りとして円空の再評価と再認識を県民に広げ、円空仏の保存・継承に努める機運を醸成させるとともに、国内外に円空の慈愛の精神、類のない独自の芸術を発信することにつながった。

【第1回～第11回までの受賞者数】

円空大賞10名1団体、円空賞46名、知事賞3名(第1回から第3回まで)、特別賞1名(第1回のみ)

・円空の「独創性」や「慈愛」の精神を、本県の文化・芸術の個性としてとらえ、円空連合(県内の円空を有する市町による団体)との連携を図って円空の顕彰と観光的活用、地域振興へとつなげる。

・物価高騰や資材高騰などの社会情勢の影響を受け、造作展示や作品輸送業務等の面においてコストが上昇することが今後予測できる。

(2) 事業内容

・「円空」を彷彿させる国内外の芸術家を顕彰し、県民に優れた芸術文化に触れる機会を設けるとともに、円空の精神を県内外へ向けて発信する。

※円空：江戸時代の僧。美濃国(現在の岐阜県)生まれ。全国を行脚し、生涯に12万体の仏像を彫ったことで知られる。

○第12回円空大賞授賞式

・令和5年度に第12回円空大賞の選考を行い、受賞者を決定。

円空大賞展開場式に合わせ、授賞式を行う。

受賞者：円空大賞1名、円空賞4名、知事賞1名、特別賞1名

受賞者：円空大賞 1名、円空賞 4名

○第12回円空大賞展

- ・第12回受賞者5名と円空仏の展覧会を開催する。

会期 令和7年1月～3月 40日間程度（予定）

会場 岐阜県美術館

(3) 県負担・補助率の考え方

県民が芸術文化に触れ、文化的な感性を高めていく機会に資するものとして、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
共済費	14	雇用保険
人件費	1,411	賃金
報償費	7,282	賞金、謝金
旅費	1,922	費用弁償、業務旅費
需用費	4,652	消耗品費、対外交渉費、印刷製本費
役務費	708	郵送、広告費
委託料	14,420	授賞式、輸送展示、造作
使用料	132	写真、デザイン使用料
合計	30,541	

決定額の考え方

--

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ・ふるさとの偉人「円空」を通して、県民に優れた現代美術や作家とふれあう機会を提供し、「円空」の精神を県内外に向けて発信するとともに、県民文化への愛着と誇りを醸成します。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
①円空大賞展入場者数	0	選考年度	4,000	選考年度	4,000	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・円空大賞新選考委員3名の決定、継続選考委員6名への就任依頼を行った。選考委員10名より円空大賞の候補者推薦をいただき、書面による事前選考を行なった。 ・第11回円空大賞展授賞式、円空大賞展に向けた日程の見直しを図り、今回は選考期間を2年間としたことで、推薦・事前・1回・2回の各選考にゆとりが生まれて選考委員の負担を軽減できた。また、受賞決定から展覧会までの準備期間が受賞作家に保証され、作品制作にゆとりが生まれた。
	選考年度のため評価不能
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度事前選考で選出された作家の中から、第1回選考委員会（6/17開催）で32名に絞り込み。第2回選考委員会（9/14開催）で円空大賞1名、円空賞4名を選出した。 ・令和4年1月18日の知事定例記者会見で受賞者の公表、令和5年1月20日～3月5日に円空大賞展が開催されることが決定した。
	選考年度のため評価不能
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・円空大賞展に向け、受賞作家や所蔵先のニーズに対応することはもちろん、借用する作品の取扱いの安全管理に配慮し、美術館学芸員の指導の下、委託業者とも情報を共有し事故やトラブルを事前に回避する対応をした。 ・第11回の円空大賞展は、コロナ禍の39日間が会期となったが、3,690名の観覧者を集めた。前々回（第10回）の展覧会を超える入場者数（3,423名）を数え、達成率は92%となった。
	指標① 目標：4,000 実績：3,690 達成率：92%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>第11回を数える円空大賞展は、現代美術展としてはもちろん、県内に所蔵されている円空仏と併せて展示する展覧会ということで、幻想的な空間を作り出す雰囲気の良いさに県内外をはじめ、海外の作家からも高い評価を受けている。</p>
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	<p>第11回の円空大賞展は、コロナ禍の39日間が会期となったが、3,690名の観覧者を集めた。前々回(第10回)の展覧会を超える入場者数(3,423名)を数え、観覧者は県内のみならず、近県を中心に県外にも、広く認知されてきたことがいえる。</p>
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>受賞作家からのオーダーにできる範囲内で応えていくことはもちろんだが、場合によっては予算規模や作品のボリューム、展示室の規模を勘案しながら、作家サイドと交渉をしていくことも必要。また、場面に応じて美術館の学芸員の助言を受けながら展示のイメージを膨らませ、より実現性の高いものを探っていくとよい。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 本事業も20年以上継続して実施しているため、多くの方に広く認知はされている。しかし、資材や物価高騰によるコスト高、現代美術に対する考え方の多様化など、社会情勢の変化や人々のニーズに対応した展覧会自体の在り方を探る必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 過去11回の円空大賞展から引き継がれてきた不易なものを残しつつ、県内外に本県の個性としての円空をさらに認知してもらえよう展覧会としていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	